

令和6年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

開催日時	令和6年 12 月 24 日(火)10:00～11:40
開催場所	伊賀市役所5階 501 会議室
出席委員	久 隆浩(近畿大学) 辻上 浩司(三重県伊賀地域防災総合事務所) 島田 和幸(京都府山城広域振興局) 中浦 順一郎(伊賀市推薦委員) 杉本 佳也(伊賀市推薦委員) 東 達廣(笠置町推薦委員) 谷本 友紀(笠置町推薦委員) 大仲 順子(南山城村推薦委員) 奥田 誌織(南山城村推薦委員) 中西 義樹(山添村推薦委員) 時枝 民生(名張市推薦委員) 我山 博章(名張市推薦委員) 長岡 孝寿(奈良県美しい南部東部振興課) 代理出席
欠席委員	大西 勝治(奈良県美しい南部東部振興課) 川向 啓造(伊賀市推薦委員) 奥谷 正美(山添村推薦委員)
事務局	伊賀市企画振興部 風隼部長、伊賀市総合政策課 奥沢主幹、森林主査 笠置町企画調整課 草水課長 南山城村企画政策課 井上課長、橋本課長補佐 山添村総合政策課 井上課長補佐 名張市なばりの未来創造部 宮崎部長、名張市総合企画政策室 今村室長、西口係長
議事日程	1. 開会・あいさつ 2. 委嘱状の交付 3. 会長及び副会長の選任 4. 議事 (1)定住自立圏構想の概要について (2)令和5年度の実施及び令和6年度の実施について (3)現在の状況について (4)今後について 5. その他
議事概要	1. 開会・あいさつ ただいまから、令和6年度第1回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談

会を始めさせていただく。

★会議及び議事録公開の確認

本日の会議は、会議を公開し会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。また、会議録についても公開させていただく。

開会にあたり、市長から一言ごあいさつ申し上げる。

— 市長 あいさつ —

2. 委嘱状の交付

事務局より委員紹介

— 委員 一言あいさつ —

★事務局紹介

当懇談会の事務局を紹介。連携して取組を進めている各市町村の担当課を紹介。

★資料の確認

事項書の下に記載の配布資料の確認。

3. 会長及び副会長の選任

「会長及び副会長の選任」について、資料1-2「伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱」をご覧いただきたい。要綱第5条では「懇談会に会長及び副会長を1人置き、会長は委員の互選によって定める」と規定されている。会長の選任について、いかが取り計らったらよろしいか。

— 事務局一任 —

事務局一任をいただいたので事務局から提案させていただく。

会長に【久 隆浩】様をご提案させていただく。久様よろしいでしょうか。

委員の皆様よろしいでしょうか。ご承認いただける場合は、拍手でご承認いただきたい。

— 拍手 —

ありがとうございました。久様どうぞよろしくお願いします。

それでは、会長にご挨拶いただきます。久会長、よろしくお願いします。

— 会長 あいさつ —

続きまして、副会長の選任について、要綱第5条では「副会長は会長が指名する委員

をもって充てる」と規定されている。久会長、ご指名をお願いします。

— 【大仲順子】様をご指名 —

ありがとうございました。大仲様どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、副会長にご挨拶いただきます。大仲副会長、よろしくお願いします。

— 副会長 あいさつ —

ありがとうございました。

★会議成立の確認

委員の半数以上の出席があるため、会議成立を確認。なお、伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条第3項に規定があることから、大西委員の代理として、長岡様に出席いただいていることを報告。

それではこの後は、同要綱第6条第1項により、「会長が議長となる」とあるので、会長により議事進行をお願いしたい。

4. 議事

(1)定住自立圏構想の概要について

—事務局【資料1—1】定住自立圏構想概要、【資料1—2】設置要綱により説明—

(会長):

私の方からも少しお話をさせていただいて意見交換させていただければと思う。先ほどの説明にもあったが、平成の大合併の1つの大きなきっかけは、これから人口が減っていく、それから財政力もどんどん落ちていく中で、従来の市町村単体では思ったよりも体力が落ちてきたので、合併してしっかりと体力をつけていこうということと合併が進んだ。一方で合併を選ばなかった所も幾つもあった。それから20年30年経ち、合併が良かったのか、あるいはずっと独立独歩でいった方が良かったのかという評価も出てきている。先ほど申し上げたように、1つの市町村だけではできないことも増えてくるだろうということで、では、合併ではない選択肢として何があるかということで、この定住自立圏構想のように、緩やかに連携しながら各市町村の独立性はしっかりと保ち、より良い地域づくりをしていこうということで始まったのが、定住自立圏だと思う。

中心市と周辺市町村となると、どうしても中心市が引っ張っていくというようなイメージになりがちだが、私はそうではないと思う。逆に周辺市町村が、いろんな資源を持っていて、それは中心市である伊賀市がそこを上手く連携させてもらって、活用させていただく

という考え方も当然あると思う。例えば、具体的に1つ申し上げると、観光面で、今、南山城村の道の駅「お茶の京都 みなみやましろ村」にたくさん人が来られるようになった。車で、あるいは電車でも、すぐに隣の伊賀市の島ヶ原に行ける。島ヶ原には温泉があるので、この道の駅に来られた観光客が島ヶ原に泊まっていただくと、お互いメリットが出てくるという形で、他の市町村もそれぞれ得意分野というのがある。そういうものを上手く連動させながら進めていければと思っているので、皆様方のお力、お知恵もお借りできたらと思う。

それともう1つは、ちょうどこの圏域が3府県に跨っているということ。しかし、この三重県、京都府、奈良県は、勝手に明治政府が決めたわけで、人の生活から見ると、県境を超えて、もう昔から繋がっていて、その生活圏を大切にしようということで、この定住自立圏というのが成り立っていると思っている。よって、その人の生活から見ると、県境を超えて動いているので、そこに合わせてどういう形で行政も動けるかということも考えていければと思っている。

それから、正式名称が長いので、もっとコンパクトで分かりやすい名前を、ということで伊賀城和という略称を付けた。そもそもこの城和地域というのは、江戸時代の藤堂藩が治めていた所を呼んでいた。歴史的に見てもこの伊賀城和というのは、1つの地域だったこともあり、そこを先ほど申し上げた明治政府が3つに区切ったということなので、この圏域というのは、しっかりと繋がっていた圏域だと思うので、そういう歴史のベースも考えながら、どういう形で、未来志向で新しく繋がれるだろうかということを、いろいろ考えていければと思っている。そのために、この推進協議会があり、共生ビジョン懇談会があると思う。先ほどの「資料1—1」13 ページの図にあるように、行政としては、推進協議会を中心に、議論を進めていただくわけだが、この生活圏をより良くするためには、様々な方々の、いわゆる協働が必要になってくる。その役割を担っているのが、この懇談会と思っている。また、行政とは違う繋がりがからどんどん強化されることを期待しているので、いろいろご意見賜ればと思う。

(2)令和5年度取組及び令和6年度取組について

—事務局【資料2—1】第2期共生ビジョン事業計画・実績表、【資料2—2】令和5年度・令和6年度取組により説明—

(委員)：

成果について2つほど。1つが「救急・健康ダイヤル 24 事業」で、社会福祉協議会の事業実施時や、また配食サービスの利用者に対して、周知チラシで案内している。より多くの住民の方に使っていただけるようなものになったらいいなと思ってさせていただいている。もう1つが「高校進学エリアの拡大」で、伊賀市の高校進学を考えられている生徒が今現在、中学3年生でいらっしゃるということを聞かせてもらった。令和5年度実績はなかったとのことだが、この共生ビジョンをきっかけに、進学を考えられてるということも聞かせてもらっている。

(委員):

「ごみ処理広域化の検討」ということで、実際に今年から伊賀市、笠置町、名張市、南山城村含めて、検討会が立ち上がり、実際どのようにしていけばよいかということを進めている。やはり、これも検討を進められているという事実が、とても私たちの地域住民の安心に繋がっている。ごみ処理の広域化という視点で、検討できる場が保障されたのは、成果として大きい。ありがたいことと思っている。

(会長):

全国的にも府県を越えて、ごみ処理を一緒にするというのは、なかなか珍しいこと。多分、山添村はもう既に天理市で一緒にしていると思うが、奈良は奈良県モデルということでいろんなものを県内の市町村で連携していきましょうというのをいち早く進めている。その意味では、それぞれの地域ごとに、このごみ処理の広域化はどんどん進んでいる。山添村は天理市と一緒にするという別のネットワークのあり方があれば、それはそれでいいじゃないかというのが、この共生ビジョンの上手い使い方だろうと思う。こういう使い方でもどんどん、やっていただければいいのかなと期待している。

(会長):

私から1つ質問。推進協議会で後援いただくメリットは、圏域全体の市町村でチラシがまかれたり宣伝していただけるということか。

<事務局>:

一番のメリットはそうである。やはりこういうイベントがあって、それぞれが参加いただくことで、良い所を見つけてもらったり、参加者同士の交流が進めば良いと思っている。

(会長):

一番分かりやすいのが、先ほど申し上げた圏域全体でPRしていただけるということ。また、それぞれの所属で、事業実施される場合は、是非ともご検討いただければと思う。また、N-1グランプリについて、交流会の会場を持ち回ると、他市町村の方がその会場を使う機会は無いと思うので、そういう会場を知っていただくのに効果はあろうと期待している。

それから、このロゴマークも分かりやすいようにということで作ったが、名張市が入れると、もう1個丸を増やさないといけなくなったので、また、事務局で、この辺りのデザインを変更するご検討をいただければと思う。

(3)現在の状況について

— 事務局 【資料3】新聞掲載記事により説明 —

(4)今後について

―事務局【資料4―1】第2期共生ビジョン目次、【資料4―2】スケジュールにより
説明 ―

(会長):

事務局に確認だが、名張市が入られたので、この共生ビジョンの中で、どの部分が一緒にできるのか、あるいは、名張市として新たに提供していただけるものがあるのかというところを中心に今、議論しているということによろしいか。

<事務局>:

はい。

(委員):

ビジョン懇談会の所掌事務は、ビジョン変更について協議すること。それで、次回、2回目の懇談会は、その変更内容について意見を申し上げると。それを受けてパブコメをされて、首長さんが入る推進協議会で最終決定するという流れか。

<事務局>:

はい。

(委員):

伊賀・山城南・東大和定住自立圏(略称:伊賀城和定住自立圏)の名称について、名張市は入っているか。

<事務局>:

伊賀地域の中に、既に伊賀市・名張市の両方が入っている。

(委員):

既に伊賀市・名張市の両方が入っているので、名称は変えないということか。それと、先ほど会長仰られた、ロゴマークは変更されるイメージか。

<事務局>:

はい。名称は変える必要はないということである。ロゴマークは、デザインの変更について検討しないといけないという話が出ているので、これを踏襲するのか、新たに変更するのもも含めて考えさせていただく。

(会長):

推進協議会と共生ビジョン懇談会がどういう関係かということで、最終決定は推進協議会で、しっかりとこの共生ビジョンを決めていくが、事前に我々が広い立場から様々ご意見を申し上げて、そこで共生ビジョンに入れていただくという、そういう役割の懇談会だと認識している。次回、具体的な変更が出てくるので、そこでまたご意見賜れればと思う。

今の時点で、気を付けておいていただきたいこととか、こういうところを盛り込んでいただきたいというのがもしあれば、いかがか。

(委員):

ややもすれば、この定住自立圏の取り組みが、中心市をベースに考えがちになる。どうしても中心市でやっているサービスを、広く、構成する市町村の皆さんにもご利用いただくような形でものが多い。逆に、構成市町村で行っている取り組みが、非常に真新しいこともあると思うので、それぞれの特性を広く共有できるようにしていただくと良いと思う。早くから人口減少が進んでいる反面、それぞれの取り組みを、いろいろ工夫してやっているケースもある。例えば、地域おこし協力隊もそうで、実績も豊富にお持ちだと思うので、その情報共有だとか、それから、昨年、地域おこし協力隊のいろいろな調査を伊賀名張全域でやった。それをきっかけに交流会が実現した。そういったお互いの交流も広めていくと、より情報交換なり、連携した取り組みが広がっていくと思っている。双方向で、いいものを持ち寄るような、共生ビジョンの改訂につなげていただくと良いのかなと思っている。今回、特に名張市が入られて、いろんな独自の取り組みをされているのを分かっているの、そのあたりも是非ご披露いただきながら、いいものが作れるといいと思っている。それが1つ。

もう1つは、取り組み自体の情報が行き渡らないと、せっかくの取り組みが広がらない、双方向に交流できないので、情報発信共有の仕方というのを、今まで以上に工夫した方がいいのかなと思っている。

最後に、基本的には基礎自治体での交流なのだが、県境を跨いでいることが1つの壁になりがちで、昨年も意見が出たもの2つ、敢えてご紹介する。

1つは、クマの出没。三重県でも結構例年になく熊の出没情報があり、県境で発生したらどうするのかというご意見があった。実際、南山城村で熊が出没し、島ヶ原から500メートルしか離れていないが、情報が伊賀市に伝わっていないことがあった。県境が違うからということだが、これは駄目だと思い、県の農林水産部に話をした。獣害対策の協議組織があるので、出没案件があったら、お互いに情報共有するような仕組みを一応設けている。県レベルでなっているが、お互いの自治体同士でも、同じようなやりとりをするように改善したと聞いている。

もう1つは、ドクターヘリ。三重県は1機しかなく、それが出動してしまうと、その補完ができない。お互いの連携ができないかという質問があった。調べたところ、奈良県・和歌山県・三重県の紀伊半島で、ドクターヘリの広域連携に係る協定を結んで相互応援が

できるようになっている。それとは別に関西広域連合に属している近畿府県が、関西エリアとしてお互いの応援ができるような仕組みがあるということが分かった。こういったものを含めて、府県を跨いでることの課題はあるが、委員で3府県の行政職員も入っているので、必要に応じて、県も含めた検討が必要なのかなということで考えている。

(会長):

ありがとうございます。この定住自立圏を核にしながら府県同士の連携ももっとどんどん進んでいけばいいなと期待している。

(委員):

私は地域づくり自治組織の代表をさせていただいている。私自身は広域化を当たり前にしようというような意見が、さらにこう強まっていくようなこの構想であろうかというふうに思っている。そんなことを推進していけるように、たくさん意見したいと思っている。今回参加させていただき、期待をしているので、よろしくお願いしたい。

(会長):

ありがとうございます。合併をして、1つの市にならなくても、いろんなところでお互い使い合うとか、繋がっていくということが出来るのが、定住自立圏の良いところ。こういうところをもっと繋がってこうよということで、ご意見賜ればいいと思うし、もう既にいろいろ繋がりが広がってきているので、また名張市も一緒に入っていただければいいと思う。ちなみに名張市が入ったことによって、近畿大学も名張に工業高等専門学校を置いているので、工業高専の先生方とか、生徒さんが、この定住自立圏のところでいろいろ活躍をさせていただくと、連携もより深まるのかなと思っている。そのあたりは、私の方から後押ししておきたいと思っている。

(委員):

多分、地域で大変だと思っているのは産婦人科が減ったことで、非常に厳しくなっている。それともう1つは、高校進学のこと。一番の交通弱者は実は学生で、特に電車に乗って通学する学生だと思う。学校へ通いやすいかどうかというのも大きなことなので、この圏域全体として医療をどうしていくのか、特に子育てをどうしていくのかということができないとなかなか、人口維持というのは難しいと思うので、そのあたり議論していただけたらと思っている。

(会長):

ありがとうございます。高校生以下も、いわゆる交通弱者の1つで、そういう方々にどうやってその公共交通機関を充実させていくかというところで、私も委員と同じ意見。おそ

らく 18 歳まで、交通機関が不便だという経験をしてしまうので、ここに住むのはしんどいなという思いにさせてしまっている部分もあるのではないかと思います。そこら辺を、また一緒に考えていければと思っている。

産婦人科は、全国的に医者自体が減ってきているので、ここを何とかしないといけないという話だが、少し参考までに、大阪府の富田林市が市民病院を持っていた。今は民間譲渡したが、その市民病院の時にしばらく産婦人科の先生が見つからず、いなかったので、お産センターという形で、助産師さんが対応してしばらく続けられていた。産婦人科とお産対応を少し切り分けて考えると、いろいろ面白いことも考えられるのではないかなと思う。

(委員):

昨年度の会議のときにちょっと投げかけさせてもらったが、圏域に住む住民同士のプラットフォームの場は、何かしらアクションがあったのかどうかということをお尋ねしたい。私たちも、事務局に一任ではなく、委員として参画している以上、自分たちのフィールド、それぞれ皆さんの立場の中で、できることはしていきたいと思う。多分 Facebook であったりとか Instagram とかで、伊賀城和のことを発信したり、みんなでハッシュタグで広めていくみたいなことができたらいいいと言ったと思うが、いかがか。

<事務局>:

圏域に住む住民同士のプラットフォーム化はできていない。宿題は残っている状態。情報発信は、それぞれの自治体が、それぞれの媒体でやっている現状である。

(委員):

是非ご検討いただきたい。

(会長):

情報は自由にやりとりできると思いがちだが、実はそれぞれの機関の壁というのが案外大きい。というのは、大阪府茨木市で複合施設を作った時に、情報交換がすぐできるように LINE WORKS を導入するのに数ヶ月かかった。特に行政は、外のネットワークに繋ぐことが、やはり非常にセキュリティの問題で難しい。そういうこともあって、簡単に線は繋がっているはずなのに、実はそのあたりですごい壁があるという。多分、すぐにプラットフォーム化ができないのは、そういうところもあるのだろうと思うが、やはり時間をかけて乗り越えていけるはずなので、是非とも情報発信・共有が住民も一緒にできるよう頑張っていただければと思っている。

(委員):

産婦人科のことについて、県としてもいろいろ議論を重ねてきたが、この課題の難しさ

が、医療と福祉と防災の3部門が上手く連携しないと対応できないということ。県庁内でも、その辺りの調整をしているが、そういった課題があるということを含めて、今後議論していく必要があると思っている。以前、奈良県で妊婦が救急車で運ばれたが、受け入れる病院がなかなか見つからず死産となった痛ましい事件があったが、あれをきっかけに奈良県で、随分、先進的な取り組みをされたと聞いている。そのあたりを参考にしながら、基礎自治体だけではなかなか解決が難しい分野なので、県も一緒に議論ができればと思っている。

(委員):

令和5年度の実組と令和6年度の実組を見ると、全体的に令和5年度の実組に対して令和6年度の実組が少ないので気になった。それから、この定住自立圏は、市町村レベルでしか入れないのか。この定住自立圏として、もし、奈良市の一部も同じ生活圏ならば入ってもらうこともありなのかなと思った。

<事務局>:

令和5年度・令和6年度の実組については、令和6年度は、基本的に令和5年度にある事業も続けている。記載の仕方の問題。

奈良市は、中心市要件を備えておらず、連携中枢都市圏要件を要していない「中核市」となっている。10月23日に奈良市と伊賀市で包括連携協定を締結した。月ヶ瀬村等生活圏が一緒の部分があったり、全体的には両市で観光連携ができないかとか、そういったこともあって、協定を結んだ。定住自立圏の枠組みでは無いが、両市のまちづくりを連携し、協力して推進していく。

(会長):

月ヶ瀬村は、伊賀市との関係の中で、サービスとかは、この共生ビジョンをうまく繋いでいただけるという、そういう理解でいいか。

<事務局>:

直接的に、この共生ビジョンの中では難しいが、結果的に上手く繋がっていたのであれば、それはよいと思う。

(委員):

そういう意味では、少なくとも月ヶ瀬村の方にオブザーバーで参加してもらうとか、我々がやろうとしている交通ネットワークの話も関わりがあるならば、共生ビジョンに書かなくても、例えば意見をもらう場をここでやる。ここがいいかどうかは分からないが、あってもよかったのかなと思う。

	<事務局>： ご意見いただいたので、また次の展開につなげられるかどうか検討させていただく。 (会長)： その辺りも、どれだけできるのか、ちょっとチャレンジしていただければと思う。 <u>(5)その他</u> —事務局 ・第2期共生ビジョン等本日の配布資料ご高覧のお願い ・メールアドレス登録ご協力のお願い <事務局>： 他にご質問等よろしいか。これをもって、本日の会議を終了させていただく。どうもありがとうございました。
--	---